

# 会 議 録

会議の名称	平成 30 年度中野市総合戦略会議
日 時	平成 30 年 8 月 23 日（木） 18：30～20：30
会 場	市役所会議室 41
出席者等	<ul style="list-style-type: none"><li>・出席者：前澤憲雄（会長）、小野建一、渡辺信也、中村稔彦、後藤治志、鈴木弘一、小林正孝、佐藤美紗、松野奈月、赤松頼子、若林正展（アドバイザー）</li><li>・欠席者：高橋一隆、山浦直人、小田切康雄、関貴彦、山口美緒、相子靖子</li><li>・市出席者：竹内総務部長、柴本政策情報課長、有賀課長補佐、松下副主幹</li></ul>
次第	<ol style="list-style-type: none"><li>1 開会（進行：総務部長）</li><li>2 委員の委嘱</li><li>3 自己紹介</li><li>4 会長、副会長の互選について</li><li>5 会議事項（政策情報課長）<ul style="list-style-type: none"><li>・平成 29 年度における中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の評価検証について</li></ul></li><li>6 その他</li><li>7 閉会</li></ol>
発言内容	別紙のとおり

【別紙】

## 平成 30 年度中野市総合戦略会議

平成 30 年 8 月 23 日 (木)

18 : 30 ~ 20 : 30

市役所会議室 41

### 1 開会

### 2 委員の委嘱

### 3 自己紹介

### 4 会長副会長の互選について

会 長：前澤憲雄

副会長：小野建一

### 5 会議事項

・政策情報課長から資料に基づき説明

・委員からの質問及び意見

#### ○評価基準について

##### (委員)

この評価基準に問題があると思います。例えば、合計特殊出生率で3年目の評価の1.65が平成26年の基準数値、目標数値が最終的には1.60となっているが、そうなるかと緩やかに減少していくとなるとと思いますが、これが5年間の目標であるとするならば、達成目標としては0.01ポイントずつ落ちていかないとこの数値が達成できない。それを2年目の評価は1.58で順調、3年目の評価は1.45と格段に落ちている。これから2年続けていくともっと落ちていくのではないかと。達成するどころかどんどん落ちていく。順調でも何でもない。転入者数でも同じことが言える。目標数値だけとらえてそれで基準を満たしているか満たしていないか%だけでだしているのなら評価の基準が非常にあまくなっている。このまま進んでいったときに達成できるかと言ったら私は100%達成できないと思う。

##### (政策情報課長)

順調、概ね順調のこのくくりの考え方ですが、数字が目標値に対して何%進捗しているかということで、数字の設定をしておりますので、順調なのに減っているのがおかしいということは、以前もこの会議で指摘をされた状況であります。数字の設定の仕方について基本的には県の基準を参考に設定している。

##### (委員)

算定の評価については、項目によってこれでいい場合もある。別の項目によっては合わないということもあるので、それぞれの項目において全部がひとつの基準値ではなくて、

きちんとそれぞれの項目において基準値を立てていかないと政策に誤りがでる。見誤る可能性が高い評価基準になっていると思う。

**(政策情報課長)**

順調という以上には、何もしないという選択肢があるのかもしれないが、数字が下がっていることは把握しているので、順調だから何もしないわけではない。表現としてわかりにくいと思うが達成の率でいけば 100%にならないと達成はしない。分かりにくさについては数字で区分を4つに分けたからです。ご指摘のような改善がされないのではないかとということについては、改善することは間違いない。区分については次期計画の見直しの所で反映させていただきたい。

**(会長)**

スタートの段階で当時はやってみないとわからない部分が多く、やってみると現実と評価の仕方が違うのではないと思う事もある。それを前提にして、中身のご指摘をお願いしたい。

**(政策情報課長)**

区分の作り方に問題があることは承知しております。改善が必要と思っております。

**(委員)**

達成率でかなり誤差があって、数字だけを見ると達成しているように見えますが、実際には達成していない。数字が独り歩きしている。

## ○基本目標毎の進捗状況について

**(委員)**

5年計画の中で累計値に対してどのような比較をされているのかわからない。転入者数が1,300人を目標としているということは、5年で7,000人弱の累計値が見えてこないの、単年度評価というのはわかりにくい。企業では、KPI5年契約であれば5年の累計値と単年度の値を比べる。両方を比べてみると次の反省に繋がると思う。

**(政策情報課長)**

KPIの評価の作り方についても各市町村で試行錯誤している状況で、今月県内19市の企画担当者研究会があり、研究会でも同じ議題がありました。この評価の作り方につきましては、各市とも悩んでいる状況だと思います。全体の数字と個々の数字を把握できて評価すべきじゃないかというご指摘はごもっともだと思います。数字の表し方は改善を図って行ければと思います。

**(委員)**

一番は人口増加と考えています。出生率の問題が出てきますが、出生率をとらえるときに子育て世代が実際に増えているのか減っているのかが重要だと思いますが、これについての経過がまったくない。出生率は人口に対する比率で見ると意外と上がっているのに、人口の流出が激しい為に下がっているというようなことは若干ないのか。世代ごとの人口の分布が分からないと評価の仕方が難しい。

**(政策情報課長)**

人口ビジョン作成時に分析をした中に子育て世代についても分析しました。出生率ではなくて出生数のところには達成できない原因として、15歳から49歳の女性人口が減少し

ていることで数字がでている。出生率の場合は率ですので女性の数が減っても一人の女性がたくさん産めば率とすれば上がっていくが、合計特殊出生率では、人口の度数が少ないとぶれが大きい数字となってしまう。過去の出生率を見ますと、中野市の数字でいくと、1.65に近い数字が出ていた年もあります。10年ほど前になりますが、1.4を切った年もあった。今回出している1.45についても、この年だけは出生数が少なかったことになりました。世帯については、15歳以下の子がいる世帯の転入世帯数で見ることになる。15歳以下の子がいる転入世帯数115世帯で数字としては達成になっていますが、この数字自体は転勤等も含んでしまっているのです、転入したからといって数字が単純に増えたか判断できないところはあります。

#### (委員)

逆もありますよね。転出が倍になるといっきに数が減りますよね。今回転入としては数がありますが、転出がどれくらいなのかわからない。魅力ある中野市と言った時に転出よりも転入の方が多いというようなことをやれば人口が増えていくということですよ。

#### (政策情報課長)

お手元にお配りしてありませんが、人口ビジョンの設定した目標値に対して現状どうなのかを口頭で恐縮ですがお話しさせていただきます。社会動態について、転入転出の部分ですが、2017年転入が1,211人転出が1,309人で△98です。実はこの数字も10年以上マイナスのままです。一番悪い時で△309なので改善は多少してきていますが、社会動態としてプラスになっていません。自然動態について、出生数が337人となります。対して死亡数が546人で△209ということで、自然動態も△200を超えてしまっています。トータルで△307という状況です。ご指摘のとおり社会動態で改善しないと自然動態は圧倒的に高齢化率が高い中では、プラスにするのは難しい。社会動態で何とか改善したい。申し上げた数字は、全県で新聞報道等もされます。近隣の須坂市では、プラスになっている。

また、国勢調査が平成27年に行われた数字の実績値に対して目標値がどうかということで数字が出てきている。平成29年の10月1日現在の実績の人口が43,142人です。平成27年に人口ビジョンを作った時の2017年の目標値が43,515人です。目標値に対して実績値は△373人です。すでに目標値を下回る数字が実績として出てしまっているのが現状です。中野市に限った話ではなく、国が推計値で出している数字に対して進んでしまっている自治体は非常に多く厳しい状況であります。

#### (会長)

魅力ある中野市にするにはどうしたらいいか基本目標3、4が非常に重要と思います。例えば産業振興は、農業所得数値としては順調に上がっているが実際は課題がある。私が携わっているきのこ産業につきましても、将来に向けては非常に深刻な課題がある。次に向う戦略がすでに必要になってきている状況であるにも関わらず、危機意識があるのかという問題もある。健康増進問題も中野市では問題となっている。確かに近隣では癌の率は一番低いです。しかし、糖尿患者が一番多くなっている。

#### (総務部長)

委員さんからもご指摘があったとおり、人口ビジョンの社会保障人口問題研究所で出した数値よりも少しでも人口が減らないような地域づくりをしていこうというのが大元にあったはずなので、ここだけはしっかり押さえていかななくてはいけない。現状として、基

準数値より下回っていることは非常に危機感を感じている。ここで進捗状況が順調と評価をしたところでどこに手を入れなくてはいけないか再度分析しなくてはいけない。今日は、このような KPI を設定したのがいいのかという議論は、振出しに戻ってしまい議論し直さなくてはいけなくなってしまうので、今は KPI の状況をご説明しましたので皆様が感じられた様子をお聞きし、仕事としている職員が感じられないことを委員さんから出てくればそれを反映するような施策をしていかなければいけないと思う。目標としている数値に近づけていく施策が出てくるのではないかと思いますので、色々なご意見をいただきたいと思います。

**(委員)**

連合長野の事務所が、中野市三好町にあります。事務所を耐震化の関係で出なくてはいけない。今、新しい事務所を探そうと思うと中野市内には事務所がない。空き家バンクの登録も見ましたが登録がない。不動産屋に行っても件数が無い。そうすると中野市から出るしかないかなという考えも持っている。広報紙やホームページに空き家バンクについてはありますが、地権者の多くは高齢者であり、そういう方に広報紙やホームページでは伝わらないのではないかと。貸事務所がもっと増えてくれば会社関係の方も中野市に来るのではないかと。

**(政策情報課長)**

この戦略を作る時に不動産屋にヒアリングをしましたが、中野市は比較的北信エリアでは引き合いがあるので、いい物件はすぐに売れてしまうとのことでした。空き家バンクにつきましても、空き家はたくさんありますが流通に乗らないものが多いと聞いている。空き家だけではなく事務所も少ないということにつきましても、承知しておりませんでしたので確認してみたいと思います。

**(会長)**

空き家については、数字だけ見ると大きな課題で立てた計画をどのように実現するのか姿勢が問われるくらいの結果になっている。家主の意識、存在、環境そのものをどのように解決するのか見えてこない。空き家になっていても不動産屋も手を出せない、周りも手が出せないというのは、権利関係、所有者の存在有無、法的な問題等あると思う。

**(委員)**

持ち主の関係、相続の関係を政府も来年、再来年に法制化して登記をするというかたちで施策をやって動かせるようにしていくということが出てきている。空き家の防犯、商店街の活性化などにも影響が出ている。商工会議所も同じような形式で登録をしているのでその辺とリンクをしたらどうか。空き家、新規就農者、創業、6次産業をリンクして提供できるような形ができればやりやすいと思う。

**(政策情報課長)**

空き店舗については、家賃補助、改修費の補助の制度があります。農業については農業経営塾等受け入れ態勢としてやっている。リンクができていくかという縦割りになっている部分は否めない。今日、〇〇委員が経営塾に参加してきました。農業ということで経営塾をやっていると思いますが、いずれは農業だけではなくと考えている方はいらっしゃいますか。

**(委員)**

農業も企業も病院、個人だったりそれぞれに企業理念を持ってやって行くことが大切と先生がおっしゃっていました。農業は家族経営的な面が強かったがもう少し企業理念を持って目標を達成していくことを先生は伝えようとしていた。若い農家の方に伝わって中野市に反映していけばいいと思う。

**(委員)**

人口減と農業の現状について、産地フォローアップ事業、農協の補助金、県単事業で中野市が主に力を入れているのは果樹栽培主にブドウなどで、それに対して高齢化も進んでいるので、一個人の農家が規模を増やしつつある。新規就農だけではなく、夏場は農業の手伝いというような方にも補助できたら転入者数も変わるのではないかと。

農業をやらなくてはいけないじゃなくて、柔軟に考えて枠組みを増やしたらどうか。

**(委員)**

農業関係で集客する場合について、今は都会から田舎へと来る方がいると思いますが、中野市でPRしていくとか、ホームページはあると思いますが、それ以外でPRされていることはあるか。検索サイトで検索すると中野市が上位にくる努力、工夫はしていますか。

**(政策情報課長)**

新規就農については、中野市は比較的多くの方に来ていただいている。移住セミナーでもPRしております。経験者本人が体験を発表し、PRしています。

サイトについては、弱いと思います。銀座 NAGANO のアンテナショップで移住セミナー等開いております。サーチエンジンに引っかかる対策としてのPRについては承知していませんがおそらくやっていないと思う。PRの戦略については、今年度からシティープロモーションということで、庁内にプロジェクトチームを作り、農業等のPRを今後強化するというので今年からはじめました。この中にサイトについての取組みも入れていこうと思う。

**(委員)**

費用をいかにかけないでPRするかが重要だと思う。若い世代にPRするにはツイッターの活用が重要で、ツイッターはリツイートされるので若い世代はツイッターで限定している現状です。農業に若者が目を向けているので、中野市もツイッターでお金をかけないで注目されることが重要と思う。

**(政策情報課長)**

フェイスブックについて、協力隊で活動しています。

**(委員)**

フェイスブックは注目している人は少ない。若い世代は、ツイッターとインスタグラムになってくる。ハッシュタグの付け方で検索数があがる。中野市はフェイスブックについて頑張っていると思いますが、各課がそれぞれで作成していて、統括する課がない。中野市全体を発信するとマーケティングになると思う。お金をかけなくても情報発信できる。

**(政策情報課長)**

最初に始めたころは、それぞれ各課で自主的に始めたのがそのまま続いている。今、ご指摘されたことはやっていません。しかし、必要なことだと思います。シティープロモーションのチームができたので、このチームで検討したいと思う。

**(委員)**

どんどん情報を発信する方が影響が大きいと思う。若い世代ということで、子育て支援について、具体的にどんなことをされているのか。例えば、保育所については待機児童はいないのですか。

**(総務部長)**

待機児童について、保育園に入れない子どもはいません。しかし、第一希望の保育園に入れない子どもはいます。希望通りにはなっていない。中野市には私立の保育園 1 施設だけです。認定保育園 1 施設、幼稚園 1 施設、民間で 3 施設でほかは公立の保育園です。施設数についてはアピールすればいいと思いますが、保育士が不足している。

**(委員)**

保育士の募集はありますか。

**(総務部長)**

毎年募集しています。継続的に採用しています。

**(委員)**

就職先があるのであれば、大学との提携等で施策はできると思います。保育士と場所が整った時に、距離的なこと、遠方だから入れないという方はどのくらいいるのか。緊急の預かり等中野市で臨機応変に対応する保育所の在り方を考える。女性が働きやすい環境を整えることで中野市に住みたいと思う人が増える。

**(総務部長)**

中野市は、PR が下手なのか一時保育ができます。日曜日も 1 園開園しています。また、病児病後児保育ができるよう、病院の近くに預かる施設があります。十分な体制はできていますがうまく PR できない。しかし、保育士を募集してもなかなか応募してもらえず、これ以上受け入れられない等で二の足を踏んでいる。分析をしてなぜ保育士が集まらないのか議論したい。お金の問題なのか、待遇の問題なのか、地理的にこの場所には働く人が集まらないのか、また農業が盛んなので有資格者であっても他の産業に人材を取られる。冬季はきのこ産業に働きに行っている人が多い、果樹産業で働く人が多いなど特異な地域かもしれない。こういうことも分析しないとわからない。未満児の希望がとても多い。5 歳児は 20 人を保育士 1 人で見れますが、未満時は 3 人を 1 人が見ないといけない。未満児について希望通りにできていない。人を増やす自然増の 1 の施策と社会増の 2 の施策その他に 3、4 の中野の魅力の施策をどのように展開していくか、今日のご意見を実際に反映させていかななくてはいけない。PR しなければいけない。

**(委員)**

ホームページの第一面に保育政策の充実等を PR したらどうか。

**(委員)**

空き家バンクはそもそも中野市でホームページなどで紹介しているのかわからない。上田方面で空き家バンクを使って埼玉県から移住された方の仕事をしています。民泊という形で自分で全部リノベーションしている。中野市も民泊のような事をやりたい人が自分で手を加えてできるような仕組みができれば移住者が増えるのではないかと。

**(政策情報課長)**

制度としてはないと思う。新聞報道で民泊新法ができて県内でも小布施町は規制を緩め

て進めようとしている。市内に1件民泊をやられる方がいらっしゃる状況であります。リフォームをして自宅で受け入れようと考えている方がどの位いらっしゃるか把握していませんができる環境ではある。

(委員)

県外の方がやりたいとなれば移住者になるので人口増になると思うが、まず空き家バンクを紹介しないと始まらない。

(政策情報課長)

空き家バンクの登録が一桁です。空き家はたくさんあります。

(委員)

長野市の空き家対策の委員を務めていますが、長野市は空き家が8,000戸あります。ほとんど所有者が分からない物件なので調べていますが、県外の方が相続し取得されているケースが多いので、所有者に情報が伝わっていないと思う。長野市の場合は対策室を作って、登記されている方を探し一人一人にアプローチをかけ、掘りおこしを行っている。いい場所にいい物件があるのなら所有者を探し出して、登録させる努力が必要ではないか。

(会長)

調査、掘りおこしは一番最初に必要なことだと思う。

(政策情報課長)

長野市の状況が新聞でも報道されましたが、中野市も特定空き家という近隣に迷惑がかかる壊れかけた物件については、現在対応準備をしております。使える空き家については、営業努力が必要と思う。

(委員)

外食産業が長野は厳しいと感じる。特にチェーン店がまったくない。活性化させるためには、チェーン店を呼び込むことも重要な政策と思う。

(会長)

空き家バンクについては、市内の不動産業者と市が一緒になって全体で足並みをそろえて情報を共有する体制を作った方がいいと思う。不動産業者が個々にバラバラに動いていても全体が見えてこない。是非、市がその役割を果たしていただきたい。

(政策情報課長)

空き家バンクの運営については、宅建協会と連携していますがPR不足と営業努力不足はあると思います。担当課に伝えます。

(会長)

そろそろまとめたいと思います。たくさんご意見を頂きました。会議事項については終了としたいと思います。次第の6その他ございますか。

## 6 その他

(政策情報課長)

先ほど申し上げましたが、国から総合戦略2.0の話が出ております。この計画は31年度が最終年度となり、32年度からの新しい計画については来年度中に策定することになると思われます。皆様には、次期計画策定のお手伝いもお願いすることになると思いますが、



その時はご連絡いたしますのでよろしく申し上げます。

**(委員)**

次期計画策定時は、目標数値を定めるのか具体的な政策までなのか。

**(政策情報課長)**

現在の総合戦略を改訂することになります。

7 閉会 (20 : 25)

**(総務部長)**

貴重なご意見ありがとうございます。目標設定の仕方等についてそれぞれ効果が出ているということで、冒頭ご説明すべきでした目標の人口ビジョンに比べてどのような状況か認識していただいてから議論すべきだったと思い、申し訳ございませんでした。途中でご説明したとおり下回っている状況で危機感を感じております。どのように改善すべきか、今日いただいた意見は庁内で共有させていただいて、できる施策をピックアップしたいと思います。引き続きご助言をお願いします。長時間にわたって総合戦略会議におつきあいいただきありがとうございました。以上で閉会とさせていただきます。ありがとうございました。